

教員名	高橋 俊彦 (TAKAHASHI Toshihiko)
所 属	ライフワールド・ウォッチセンター
学 位	理学博士
職 名	助教授
URL / E-mail	takahashi.toshihiko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

化学物質総合管理 / 国際動向 / SAICM / 自主管理 / 法律体系

◆主要業績

総数 (3) 件

- ・高橋俊彦・結城命夫・増田優. 化学物質総合管理を巡る国際動向－SAICM と日本の課題－、
化学生物総合管理、2(2)、219-241、 (2006)
- ・高橋俊彦・増田優. 国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ(SAICM)に関する調査、
化学生物総合管理学会第3回学術総会、日本科学未来館 (東京)、2006年10月
- ・増田優・角五正弘・高橋俊彦・高山千代蔵・中田邦臣編集、「化学物質を経営する 供給と管理の融合」、
化学工業日報社、2007年2月

◆研究内容

化学物質に関する最近の国際動向とわが国の現行制度とを比較することにより、わが国が抱えている問題点を明らかにするとともに、課題の解決に向けての目標と戦略を導き出すことを目的とする。SAICM (国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ)が2006年2月にドバイで開催されたICCM (国際化学物質管理会議)で採択され、世界的により具体的な化学物質管理のための活動が要求されることになった。SAICMの内容の調査とICCM後の化学物質管理に関する国際会議の内容を調査することにより、今後のわが国の化学物質総合管理のあり方について検討した。

◆Research Pursuits

The purposes of research are to clarify the problems of the chemical management system in Japan and to solve the problem by comparing current regulation system for chemicals management in Japan with the international trend.

SAICM (Strategic Approach to International Chemicals Management) was adopted at ICCM (the International Conference on Chemicals Management) which took place in Dubai in February 2006 and more concrete actions for sound management of chemicals are required globally.

The desired direction of the integrated chemicals management in Japan was investigated through the research of SAICM and international meetings after ICCM related to sound chemicals management.

◆将来の研究計画・研究の展望

自主管理や社会的責任という概念は、企業に限らず社会を構成し化学物質総合管理に関わる全てのセクターに共通する。この概念に基づく行動が各セクターに期待されており、そのための体制の構築が国レベルでの化学物質総合管理の能力向上のために必要とされている。化学物質総合管理を国レベルで推進する上で企業の他に、専門機関、人材養成機関、非政府組織の役割と、現在抱えている課題を明らかにし、これらのセクターの今後の発展に寄与することを期待している。